

今もここに。
蓮如さんの教え



吉崎

蓮如上人と吉崎御坊跡

吉崎御坊は浄土真宗第8代法主・蓮如が道場を開いた地です。1471年から1475年の4年3ヶ月、吉崎に滞在しました。蓮如の分かりやすい教えは多くの人々の信仰と崇敬を集め、今でも「吉崎の七不思議」など蓮如にまつわる伝説は数多く残っています。「蓮如さん」と呼ばれ親しまれている蓮如上人の像がある吉崎御坊跡は、風光明媚な公園に整備されており、鹿島の森をのぞむ美しいロケーションと四季折々の移ろいで来る人の心を和ませてくれます。

語り部／吉崎語り部の会
田嶋 直和さん
(吉崎公民館 0776-75-1205)

「御山にあがる『馬場大路』という道が2015年新たに復元されました。吉崎を初めて訪れる方には、ぜひご覧いただきたいです!」



御忌法要 御影道中

蓮如上人の御影像が入った輿を担ぎ、京都から徒歩で7日間かけて吉崎へと運びます。世界的にも珍しい行事で、江戸時代から300年以上も続けられています。(毎年4/23にご到着)



お腰掛けの石

吉崎御山にあるこの石は「吉崎の七不思議」のひとつ。雪が積もってもすぐに溶けてしまうそう。蓮如さんが腰掛けた石で、今でもぬくもりが残っているからと言われています。



弁天島 ～縁結びのパワースポット～

福井県と石川県の県境にある「弁天島」。陸続きの島の頂に弁天様を祀った祠があり、その格子戸に利き腕でないほうの手で草を結びつけられると、好きな人と結ばれると言われています。



鹿島の森を望むカフェ

蓮如上人記念館には、紙人形で吉崎の七不思議を表したお堂や、蓮如さんの声が聞ける回遊庭園などがあります。北潟湖に浮かぶ鹿島の森を眺めながら、ちょっと休憩。

細呂木

嫁おどし伝説の残る細呂木

その昔、夫と子どもに先立たれた嫁キヨは、毎晩仕事を終えてから吉崎参りを続けていました。それが気に入らない意地悪な姑はある晩、鬼の面をかぶり白かたびらをまもってキヨを威してやろうと企みます。しかし信心深いキヨは恐れることなく、念仏を唱えながら吉崎御坊へと先を急ぎました。その帰り、先ほどの場所に差し掛かると、鬼の面が顔から剥がれずもがいている姑の姿が。やがて、懺悔し、助けを求めてきたので、キヨは念仏を唱えるよう勧めました。すると、面はすっと離れ落ち、それからは無二の信者になったんだとか。

語り部／ほそろぎ歴史を語る会
大南 新一さん
(090-2125-8108)

「昔には選れないけれど、その当時の情景が思い浮かぶようなご案内をします」



旧北陸道

細呂木地区から加賀境までの1300mは源義経や親鸞聖人が往来した由緒ある街道が残っています。近くには関所があり、簡単に関所破りができないよう曲がりくねった辻になっています。



細呂木関所跡

金津奉行所から出張していた番人(関守)が駐在し、福井藩の手形がなければ通ることができませんでした。特に入鉄砲に出女には厳しかったんだとか。



のこぎり坂

当時はのこぎりの歯を縦にしたような起伏の激しい急な山道でした。親鸞が門徒衆との別れを惜しんで残した詠歌も残っています。



千束一里塚

江戸日本橋を起点として全国の主要街道に1里(約4km)ごとに設置されました。東に2本、西に1本ありましたが今は西側の榎のみ残り、当時を感じることができます。

嫁威し伝説と
国境の旧北陸道

400余年、
墓を守り続ける柿原地区



柿原

多賀谷氏の墓を守る

広々とした畑が広がる柿原地区。ここに暮らす人々は、福井藩主・結城秀康から国境警備を任された多賀谷左近三経(たがやさこんみつね)の墓所を今なお大事に守っています。三経は柿原郷に館を築き、家臣200余人を引き連れて館の付近に刀鍛冶、弓師、町人などを集めて城下町を作り国境警備にあたりました。三経の治めた7年は善政で名高く、柿原郷千戸と呼ばれるほど栄えたそうです。平成3年、福井大震災で倒壊した墓所の修復作業が完了し、現在のかたちになりました。

語り部／多賀谷左近三経公奉賛会
酒井 敏雄さん
(090-4069-0126)

「400年前に城下に千戸のにぎわいがあったというロマンが広がります」



笏谷石の五輪塔

1607年4月に病没した主君・秀康の後を追うように7月21日(41歳)で没した三経。その後、末孫の虎千代が笏谷石で五輪塔を建立しました。「空・風・火・水・地」と5文字入った当時のものが残っているのは珍しいそうです。



菩提寺・大蓮院 専教寺

三経の菩提寺である大蓮院専教寺は858年、空海(弘法大師)の直弟子・空量が草創しました。空量和尚の後、蜜源が継ぎ、檀家800余りの大寺に栄えました。28代・第7世の住職は三経の次弟で、それから多賀谷家の菩提寺となっています。



「柿原」の地名の由来

大蓮院専教寺が建立されたこと、この周辺には柿の林があったことから名付けられたそうです。今でも、秋になると越前柿がたくさん収穫でき、あわらの特産物となっています。